第 50 回　川崎市幼児教育研修大会
第１分科会　統合保育研究会
日　時　平成 22 年１月 20 日（水）
場　所　川崎市幼児教育センター
講　師　塚越　和子先生
（つかごし療育コンサルティング代表）
基本主題：『一人ひとりの子どもの育ちを支援するために』
テーマ：「統合保育の成果を実践のなかから考察する」
俯瞰図番号　E7 －Ⅰ　E7 －Ⅱ

事例発表

〇発達の特性をふまえた保育
　年中男児・診断名なし

＜特徴＞
・さまざまなことに対して質問をする。
・マイペースな関わり方。
・周囲の子どもたちのようすを気にしない。

＜対象児のようすと取り組みの実践内容＞
・興味のあるものを見つけると、保育室から出ていってしまう。
→保育室から出てはいけない時間ということを繰り返し伝えることで、徐々に保育室にいられるようになった。
・保育者が職員室にいくと、待つことができず、保育者を追いかけてしまう。
→保育室で粘土などをして待つよう声をかけ、待っていられた時はほめることを繰り返し行った結果、待てるようになった。
・気に入った友だちとの関わりが多いが、自由遊びの時はあまり関わらない。
・自分が気になったものへの思いが強く、保育者が話をしている時も、座っていることができない。
→対象児が座る場所にマークを貼ると、座れるようになった。他児も、マークのところに座るよう声をかける場面がみられた。
・声かけのみで指導しても、自分の興味が強く、なかなか行動しようとしない。
→身のまわりのものを写真カードにして援助したところ、身支度が以前よりも早くできるようになった。
・発表会の練習では、気が散ってしまうため、対象児の気になるものを布で隠し、見えないようにした。
・発表会当日、興奮して座っていられず、声をかけても立ち歩いていた。
→おもちゃを用意しておけばよかったと感じた。

＜保護者との連携＞
・日々、対象児の園でのようすを伝えている。
→保護者は、「自分の思うままに行動していないか」、「落ち着いていられたか」、「友だちを傷つけていないか」、「保育に参加できたか」等を気にしており、それを中心に話している。また、対象児の成長と同時に伝えていた。
・保育者が対象児にしてほしいことを、具体的に保護者にも伝えている。

＜まとめ＞
・絵カードやマークは、会話ができる子に対しては有効ではないと思っていた。
→講義を聞き、絵カードやマークを使っての援助では、対象児がすぐに行動するなど、変化が見られた。
・今後も、対象児のその時にやりたいと思うことを否定せずに、いつだったらできるか見通しを立てられるよう、支援していきたい。
・自分のやりたいことを言葉で伝えられるように援助したい。

＜質疑応答・参加者の意見＞
・対象児が一番興味を持っているのは何か。
→電車とキーホルダーが好きで、いつも見ている。
・全体で何かをしている時に、対象児が話しかけてきたらどのような対応をしているのか。
→対象児の話を聞き、受け入れた上で、今は何をする時間かということを伝えている。
・保護者との関係で悩んだことはあるか。
→対象児は他園から転園してきており、保護者に対象児のようすを伝えても、前の園ではで

きたと言って、なかなか受け入れてもらえなかった。繰り返し伝えていくことで少しずつ家でのようすも話してくれるようになり、信頼関係が大切だと感じた。

〇生活に必要なスキルを身につける支援
年長女児・ダウン症
＜特徴＞
・発音が不明瞭
・頑固さがあり、切りかえに時間がかかる
＜対象児のようすと取り組みの実践内容＞
・言葉
→保護者が話すことに対し行動することができる。園での一斉の指示やルールの理解はむずかしいことがあるので、平仮名を書いて理解を促している。
言葉が不明瞭なため、長文になると聞きとりにくい。
・生活習慣
→着がえは遅いが、ボタン以外は自分で行う。ボタンの近くの布を縫い、ボタンがつかみやすいようにした。
排泄をいやがり、個室に入っても立っていることが多かった。並ぶ列の最初にするなど、時間短縮をした。
食事では、好きなものを食べ終わると、遊び始めてしまったり、片づけをせずに立ち歩いたりしていた。遊び食べを始めたら、「食べない」と意志を言葉にするよう促し、残っていても終わりにして片づけを一緒に行った。
・移動
→体のバランスが悪く、転ぶことが多い。必ず保育者と手をつないで歩くようにしている。
園外保育で歩く距離が長い時は、補助教諭と一緒に後ろからゆっくりと歩くなど、状況に応じて配慮している。
・全体的に
→補助教諭と、成長した点を話したり、対応が変わった時には必ず知らせ、統一化をはかっている。
学期ごとに園全体で障がい児報告を行い、配慮してもらいたいことを把握する場を設けている。
学期ごとの目標に対する報告書を作成している。
＜まとめ＞
・好きなことを見つけ、保育者とともに楽しい時間を過ごすことで、信頼関係を築くことができた。
・対象児の行動に沿った支援を行う。
・対象児の特徴を確認しながら、対応策を考える。
→①～、②～と順序立てて指示を伝えた。
・家でも園と同じ対応をお願いした。
・対象児と保育者の信頼関係ができて初めて、よい取り組みを行うことができる。
・１つの対応に対し、継続して行い、結果が出ない時には対象児の特徴をもう一度見つめ直し、対象児に合った対応をしていくことが大切だと実感した。
＜質疑応答・参加者の意見＞
・人の気持ちなど、目に見えないものを伝えるのがむずかしい。
・絵カードを使ってみて、どうだったか。
→対象児は保育者の言葉を理解していたので、最初は絵カードは必要ないのではないかと思っていた。しかし、使ってみると、視覚からの情報で理解しやすくなったり、行動しやすくなるのだと思った。
・記録を残して、次年度へ引き継ぐことがよいと思った。
・補助教諭との連携は、始めからうまくいっていたか。
→始めはうまく伝わらないことがあり、対象児の対応が定まらなかったこともあった。話し合いを重ね、一緒に取り組むことで、少しずつうまく対応ができるようになった。

〇ストラテジーシートを使って状況を整理し、気になる行動の対応を考える。

年中男児

＜対象児のようす＞

・入園当初より、落ち着きがない。

・一斉活動の際、椅子に座れず、保育室から出てしまうこともあった。

・問いかけても、オウム返しだったり、関係のないことを話してしまう。

＜ストラテジーシートを使用しての取り組み＞

●保育室でのようすについて

・①気になる行動→②事前の行動→③事後の行動→④望ましい行動→⑤最終目標→⑥事前の対応の工夫→⑦ほめ方・楽しみな活動の順で記入する。

①保育室から出ていってしまう

②活動から活動の間や、座って待っている時間

③他のクラスに入り、おもちゃで遊んでいる

④保育室から出ない

⑤椅子に座っていられるようにする

⑥保育室から出ていっても、無理に追いかけない

他のクラスの先生にも協力してもらい、どこにいるのかを把握しておく

「先生がお部屋で待っているよ」と声をかけてもらう

保育室のなかで安心する場所を見つける

⑦次の活動への導入を、手遊びや絵・実物を見せるなど、視覚的なものでわかりやすくする

席に座ることができたら、その都度ほめる

・座ることを優先し、好きな電車などを持ってもよいことにしたところ、大分座っていられるようになった。

・保育室にいる、座るということを一番に考えるのではなく対象児が安心できるようにすることを一番に考えたことがよかった。

●手を洗う場面について

①友だちを押しのけて列の先頭に立つ

②保育者が手を洗うよう声をかける

③「もうおしまい」と声をかけるまで、ずっと手を洗っている。

④友だちを押さない

しっかり列に並び、順番を守る

⑤洗ったら次の友だちと交代する

⑥対象児には早めに手を洗うことを伝え、一番に洗えるようにする

手洗い場の前にビニールテープで線を引き、どこに並ぶのかわかるようにする

⑦「上手に並んで待てたね」、「水遊びはプールでたくさんしようね」と頭をなでながらほめる

事前の対応を行ったことで、手を洗う際に押すことが少なくなった。

●体操順に並ぶ（運動会の練習）

①自分の場所に並ばず、フラフラしている

②保育者が体操順に並ぶよう声をかける

③担任に「〇〇くんの後ろだよね」と言って、みずから並ぶが、少し経つとフラフラしている

④みずから自分の場所に並ぶ

⑤みんなで一緒に並んでいられる

⑥全体に指示を出す前に、対象児に運動会の練習を行うことを直接伝える

直線にテープを貼り、真っすぐ並ぶことを伝える

対象児の前後の子に、並ばず困っていたら教えてあげるよう、伝えておく

⑦並べたら「上手に並べたね」と声をかける

練習後のことを伝える

・並べても、少し経つとフラフラしてしまうため、次の活動内容を伝えた。

＜ストラテジーシートを使って共通してよかった点＞

・視覚でわかる環境設定。

・他児よりも一歩先の早めの声かけ。

・次の行動・活動の見通しを絵カードなどを使って伝える。

・次の目標を立てられたり、うまくいかなかったことに対して異なるやり方を考えたりすることが、しやすかった。

＜質疑応答・参加者の意見＞

・いけなかったことを理解できず、友だちを叩いたりしてしまう。何度伝えても伝わらない

時どうするか。
→とにかく何度も繰り返し伝えた。また、起こらないような環境も考えた。
＜講師より＞
・シートを使うことによって、困ったようすを図を使って整理できる。
・行動・事前・事後には、対象児のありのままの姿を書く。
・望ましい行動には、対象児ができることを肯定文で書く。
・対象児が困った行動をする前に、保育者が何ができるかを事前の対応の工夫に書き出す。
・保護者が具体的な目標や何について頑張っていくのかわからない場合には、ストラテジーシートの使用が有効的である。
→具体的に苦手なこと、何が目標かがわかる。

〇Ｎちゃんのトイレットトレーニング
年中・診断名なし
＜対象児のようす＞
・単語や身振りで、自分の気持ちを表現できる。
・言葉の発信は一方的で、コミュニケーションがとりづらく、オウム返しの時もある。
・靴の着脱、手洗い、食事は１人で行える。
・身支度、衣服の着脱、製作は援助が必要。
＜トイレットトレーニングの取り組み＞
・目標
→新しいトイレで排泄できるようになること。
オムツをとり、パンツで登園すること。
・便座に座れない。
→家から補助便座（対象児のお気に入り）を持ってきてもらう。
補助便座を見せて、保育者と一緒にトイレへいく。
慣れてくると、自分で補助便座を持って、トイレへいくようになる。
・補助便座が見当たらなくなると、スムーズに補助便座なしで排泄できるようになった。
・自宅からパンツで登園しても、パンツを濡らすことなく、トイレで排泄することができるようになった。
・トイレにいきたい時は、みずから保育者に意思を伝えることができるようになった。
・対象児が「トイレにいく」と言う時に、語尾が上がってしまって、聞いているような言い方になっているので、今後は語尾を下げた言い方で伝えられるように指導していきたい。
＜まとめ＞
・般化行動（指導や練習によって、できるようになったことが、他の場所でもできること）をするための必要性。
・補助便座を使ったことによって、トイレに慣れ、オムツからパンツにかえることがスムーズに行えたため、補助便座を使用してよかったと感じた。
・補助便座を使ってみるという案は、保護者から出たものなので、保護者に相談してみるということもとても大切だと学んだ。
＜質疑応答・参加者の意見＞
・対象児を受けもって、よかったと思うことは何か。
→クラス全体で、その子の成長を見たり、まわりの子が手伝ったりしている姿を見て、やさしい気持ちが育っていると感じ、よかったと思った。

〇塚越先生より講義
・保護者のケアをしっかり行う。
→保育者は対象児１人１人のようすをしっかりと整理し、保護者の気持ちを受け止めながら保護者に子どものようすを伝える。これから何が大切かという目標を保護者と一緒にスモールステップで考えていくことが必要である。